

2013年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：モニタリング

平成22年度案件「ナミベ州小学校増築計画」終了

実施団体：ナミベ州教育科学技術局

供与額：103,794米ドル

ナミベ州立アントニオ・アグスティーノ・ネット小学校の校舎は、ナミベ市中心部に位置する植民地時代の建造物があり、歴史のある小学校です。既存の7教室では、増加する児童の数に対応できず、本件により、新たに2教室と廊下、トイレ男女用2カ所を増築し、より多くの児童に教育へのアクセスを実現すると同時に、学校環境の改善を行いました。2013年8月、「ナミベ州小学校増築計画」が完了し、現在当小学校では、約900人の児童が学んでいます。



増設された校舎



新設されたトイレ

平成23年度案件「モシコ州ルエナ市保健所建設計画」終了

実施団体：コミュニティ開発統合アクション（AIDC）

供与額：111,518米ドル

アンゴラ南東部のモシコ州は、ザンビアやコンゴ民からの帰還民が多く、今後もさらに人口増加が見込まれています。人口7千人を有するサワンボ地区には、これまでひとつも医療施設がありませんでしたが、本件により、サワンボ地区保健所が完成しました。2013年9月、落成式が行われ、地元住民、州政府が参加し、盛大な式となりました。保健所は、診察室、病室（ベット3）、検査室、薬品室、事務室、トイレで構成され、各部屋に洗面台を設置し、より衛生的な医療サービスを行うことができます。人員体制は看護師5名、事務員3名で、運営は月曜日から金曜日まで、8時から15時半までとなっています。当日は、早速マラリアと思われる住民が訪れ、医師による処置が行われました。サワンボ

地区からルエナ中心地までは約5 km、車では10分ほどですが、交通手段を持たない住民にとっては、この保健所の役割は大きく、初期医療へのアクセスが期待されています。



完成したサワンボ地区保健所



保健所入口に掲げられた看板

平成21年度「クアンド・クバンゴ州クシ市女性農業生産システム支援計画」終了

実施団体：アンゴラ郷土事業協会（COOPIL）

供与額：97,066米ドル

2013年10月、クアンド・クバンゴ州クシ市内において、「クアンド・クバンゴ州クシ市女性農業生産システム支援計画」における終了モニタリングを行いました。

アンゴラ南東部クアンド・クバンゴ州は、首都ルアンダから約970 kmに位置し、モシコ州に続き2番目に面積が大きい州です。手つかずの土地や内戦中に放置された広大な土地と豊富な水を有し、農業が主要産業で、同州の労働人口の95%は農牧畜業により生活を営んでいます。戦災未亡人が多く、農村部での農業の85%は女性によって行われています。このプロジェクトは、農機具整備に加え、農業専門家による農業研修を行いました。また、戦災未亡人及びその家族の生計向上を図ることを目標とし、ポロト地区とミソンボ地区において女性200人を対象に研修を実施し、さらに農業組合を立ち上げました。本件が開始されてから2年半経ちますが、研修で習得した技術を活かし、家畜の糞を利用した肥料や、防寒や防虫対策を行いながら耕作が続いています。実施団体（COOPIL）による本件終了後も、農民自身の力でより良い農業生産が続くことが期待されます。



均等に苗を植えられるように測量している様子。



現在のキャベツ畑の様子。その他、レタス・人参・玉ねぎ・トマト・オクラ・トウモロコシなどが栽培されている。

平成25年度案件「ベンゲラ州バロンボ市チドゥンボ町小学校4教室建設計画」終了

実施団体：コミュニティ開発支援組織（AADC）

供与額：114,454米ドル

平成26年2月5日、平成25年度草の根・人間の安全保障無償資金協力による「ベンゲラ州バロンボ市チドゥンボ町小学校4教室建設計画」により完成した小学校の開校式が開催されました。開校式には、ベンゲラ州教育科学局代表やバロンボ市長をはじめ、バロンボ市教育課長、村長、バロンボ市民協会、教会関係者、報道関係者、そして多くの村人と生徒が集まり、盛大に行われました。2月から始まる新学期に合わせて、建設工事が終了し、約580名の生徒がチドゥンボ町ブンゲ村小学校で学びます。プロジェクトを通じ、NGO団体であるAADCと地元政府との協力関係はさらに強化し、村には橋が建設され、水と電気が整備されました。インフラ整備以外にも、PTA研修を実施したことで、学校とコミュニティによるより良い教育環境づくりを実現します。



完成したブンゲ村小学校



教室の様子



女子児童用水洗トイレ



通学路の様子

平成24年度案件「ルアンダ州カクアコ市小学校3教室建設計画」終了

実施団体：コミュニティ開発支援団体

供与額：106,123米ドル

新年度開始に伴い、「ルアンダ州カクアコ市小学校3教室建設計画」が完了し、エスペランサ・フトゥーロ（将来への希望）と名付けられた小学校において、授業が始まりました。地元のアウグスト・ンガングラ自治体の協力のもと、本プロジェクトにより、小学校建設（3教室、事務室、トイレ）及び備品整備が行われ、約340人の児童が当該小学校で学べるようになりました。O A D E Cが当該小学校の運営管理を行い、今後は授業がない休暇や土日を利用して、地元の若者向けの基礎会計や外国語の人材育成コースを実施する予定です。



完成した校舎